

活用効果調査表 作成マニュアル

～A, VR技術対象～
(VEの技術は作成不要です)

※このマニュアルは、新技術の活用後に
活用効果調査表(実施報告書含む)を作成する
際の手順や留意事項を示したものです。



活用効果調査表 作成マニュアル 目次

「活用効果調査表」の役割及び提出時期	1 ページ
活用効果調査表 管理画面・活用効果調査表入力画面	2-3 ページ
I 新技術活用計画書 記載情報の更新（工事期間の修正）	4 ページ
II 実施報告書 記載方法	5-6 ページ
III 活用効果調査表 活用効果調査表作成の視点（比較技術）	7 ページ
調査表の記載方法	8 ページ
評価点1～5点の目安	9 ページ
5点と評価する場合の評価事例	10 ページ
同等と評価する場合の評価事例	11 ページ
コメントの記載内容留意事項	12 ページ
「当該技術に関連しない項目」の取り扱い（令和7年4月より選択しない）	13 ページ
「品質・出来形」の評価（出来形に影響しない技術）	14 ページ
「安全性」の評価（第三者に対する安全性）	15 ページ
「その他」の項目の取り扱い	16 ページ
総合的所見の記載方法	17-18 ページ
活用効果調査表の提出	19 ページ
活用効果調査表提出後 確認者から発注者への確認・修正依頼対応	20 ページ
活用効果調査表提出後 発注者から施工者への確認・修正依頼対応	21 ページ
活用効果調査表 よくある不備・留意点・よくある質問（Q&A）	22-24 ページ

「活用効果調査表」の役割及び提出時期

活用効果調査表は、直轄事業で活用された新技術の有用性を検証し、評価することを目的とした事後評価（評価会議）に欠かせない大変重要な基礎資料です。

工事期間終了前であっても新技術活用が終わりましたら、速やかに提出（登録）をお願いします。

なお、活用効果調査表の内容（コメント等）は、事務局で修正できませんので、評価会議において、委員に対してそのまま公開されます。その事を念頭において、作成をお願いします。

■ 活用効果調査表の提出時期について

活用効果調査表は、評価会議にはかるため、速やかにNETISへ登録し、内部公開（イントラネットへの公開）する必要がありますが、内部公開する前にチェックを行い、記載内容に不備等があれば、修正依頼を行っています。

年度が変わって異動となった場合でも、当時の担当監督員へ修正が依頼され、施工者との調整が必要となります。異動後の修正作業は、施工者・監督員に大きな手間が生じますので、早めにチェックを済ませ、年度内に公開ができるよう、新技術の活用が終了した時点で、早めの提出（登録）をお願いします。

新技術活用システム

活用効果調査表

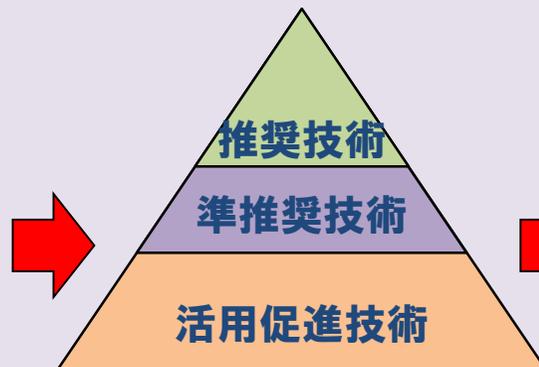
5件以上集まった！

5件以上の活用効果調査表が集まりましたら事後評価を行い、有用な技術の選定を行い、有用な技術の普及をはかります。

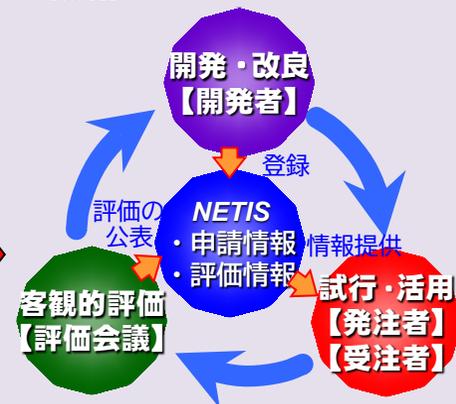
【 事後評価 】



有用な技術の選定・普及



技術のスパイラルアップ



活用効果調査表 管理画面・活用効果調査表入力画面 - 1

2

A又はVR技術の活用が終わりましたら、**施工者は速やかに「実施報告書」「活用効果調査表」の作成・提出**をお願いします。
*工期末の提出ではありません。

- 活用効果調査表は、**先に施工者が作成し発注者に提出する手順**となります。
- 活用計画書作成時に工事毎に発行されたID/PWを使ってログインし、活用効果調査表等を作成します。
- ログイン先は、活用計画書と同じです。

- ① 施工者はID/PWの通知メール、又はNETISのHPからログイン画面へアクセスする。
- ② ID/PWを用いて活用計画書入力用ページへアクセスする。

新技術活用工事
ご担当者様

NETIS 活用計画書入力用のID/PWが発行されましたのでお知らせします。
以下のID/PWで、活用計画書入力用Webサイトへログインの上、活用計画書の入力をお願いいたします。
※ID/PWはログインに必要となりますので、紛失しないよう保管をお願いいたします。

【ID/PW】 施工者用 ID ABCDE PW 12345

【新技術活用工事情報】

受注者名 ○○株式会社
組織機関名 中国地方整備局
部署・事務所名 中国技術事務所
工事名 ダミー工事3
工事のコリンス番号 4000000006

【活用計画書を作成する新技術のNETIS番号】
*KT-240161

【活用計画書入力用Webサイト(施工者用)】
活用計画書入力用Webサイトへ

施工者

ログイン画面

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

施工者

ログインID ABCDE
パスワード 12345
ログイン キャンセル

ログインID/パスワードをお持ちでないか
新規登録をお願いします。

ログインID/パスワードを新規登録

② ID/PWを入力後、
ログインボタンをクリック

参考：NETISのHPからアクセスする場合
(<https://www.netis.mlit.go.jp/netis/input/pubsearch/search>)

新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

施工者

活用効果調査表 / 活用計画書

このタブを選択

WEB活用効果調査表

次の様式で作成できます。

- 新技術活用計画書・実施報告書
- 活用効果調査表(発注者用)
- 活用効果調査表(施工者用)

活用効果調査表の作成にあたっては、「NETIS機能操作マニュアル(オンライン活用効果調査表作成)」を確認してから行ってください。
※マニュアルは随時更新されますのでご注意ください。

① クリック

旧システムで作成した活用効果調査表の内容を修正する場合は、こちら

R7年1月の改良で、「活用計画書入力用」と表示変更されましたが、「活用効果調査表」もこちらのリンクとなります。

活用効果調査表 管理画面・活用効果調査表入力画面 - 2 3

③ ログイン後、管理画面から作成する活用技術の「活用効果調査表／活用計画書へ」ボタンをクリックし、入力ページを開く。

④ 活用効果調査表（実施報告書等含む）の必要事項を入力する。

ログイン後管理画面

施工者

工事/業務情報

工事/業務情報・連絡先等の変更

受注者名	〇〇株式会社
組織機関名	中国地方整備局
部署・事務所名	中国技術事務所
工事名	ダム工事3

活用効果調査表の検索

NETIS番号

この条件で検索

③ 作成する活用技術の「活用効果調査表／活用計画書へ」をクリック

調査表／計画書作成状況

	NETIS番号	技術名	調査表/計画書作成状況
活用効果調査表/活用計画書へ	KT-230048	小黒板電子化アプリ「SiteBox」	施工者作成中
活用効果調査表/活用計画書へ	QS-140003	自走式仮設水洗トイレカー	最終確認者確認中
活用効果調査表/活用計画書へ	KT-180089	樹脂製ネットによるイタドリ等の生育抑制手法	施工者作成中
活用効果調査表/活用計画書へ	KT-170088	紫外線硬化型FRPシート「e-シート」	中間確認者確認中
活用効果調査表/活用計画書へ	KT-230067	モバイル端末による3次元計測ソリューション「PIX4Dシリーズ」	施工者作成中
活用効果調査表/活用計画書へ	QS-190005	現場クラウド One_現場支援機能サービス	公開済
活用効果調査表/活用計画書へ	KT-160005	RICOH Drive電子黒板アプリ(スマートデバイス用)	監督者確認中

活用する新技術の追加・削除 ログアウト

調査表／計画書作成状況が「中間確認者確認中」「最終確認者確認中」「公開済」になっている場合は、右ページ上のボタンが、下記の表示に変わり、登録ボタンが無くなり登録（修正）ができません。
誤って登録してしまい修正が必要な場合は、中国技術事務所へご連絡下さい。

画面を閉じる
 一時保存
 印刷・プレビュー
 登録

施工者

※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー「一時保存」から行えます。

・登録内容に関するお問い合わせはこちら

・システム操作方法に関するお問い合わせはこちら

技術活用提案日 2025/02/04 「技術活用提案日」を変更したい場合は、上部にある「コリンズ/テクリス番号・連絡先等の変更」ボタンより変更登録をお願いします。

登録番号 (技術活用提案日時) KT-180089 - VR

新技術名称 樹脂製ネットによるイタドリ等の生育抑制手法

比較する従来技術 除草、法面整形工、抜根、植生の併用

組織機関名 中国地方整備局

部署・事務所名 中国技術事務所

工事名 ダム工事3

活用等の型 施工者選定型(契約後)

登録番号 (最新) KT-180089 VE

④ 必要事項を入力する
→ 各書類の記載方法は
4～18ページを参照

A技術・VR技術では
「新技術活用計画書」
「実施報告書」
「活用効果調査表」
の3つの様式の作成・提出が必要です。
各々の様式はタブで切り替えて入力します。

新技術活用計画書 | 実施報告書 | 活用効果調査表 (施工者用)

活用効果調査表作成時に最新の技術の状態がVEやVGに変わっても、「実施報告書」「活用効果調査表(施工者用)」のタブは自動的に消えません。「実施報告書」「活用効果調査表(施工者用)」の提出が必要かどうか監督員に確認し、提出不要であれば中国技術事務所へ連絡下さい。
VE技術に変更(「実施報告書」「活用効果調査表(施工者用)」のタブ削除)して登録出来ます。

● VE技術のタブについて
VE技術は、「新技術活用計画書」のタブしか表示されず、現在実施報告書の作成も不要です。

I 新技術活用計画書 記載情報の更新

工事期間、新技術施工期間が、計画時より変更されていまして修正をお願いします。

- ① 活用効果調査表を作成する技術の「新技術活用計画書」のタブをクリック。
- ② 工事期間／新技術施工期間等の変更があれば更新する。
- ③ 提出前には、必ず「記入完了」をチェック。

施工者

記入完了チェックボックスは、各タブ毎にありますので、活用効果調査表提出時には3つのタブ内のチェックボックス全てにチェックして下さい。

① クリック

The screenshot shows a web form with several tabs: '新技術活用計画書' (selected), '実施報告書', and '活用効果調査表 (施工者用)'. Below the tabs, there is a '記入完了' checkbox which is checked. The form contains the following fields: '作成日' (2022/04/25), '受注者名' (●●●●●株式会社), '契約額(円)' (●●●●●円), '工事期間' (2022/04/09 ~ 2023/03/31), '新技術施工期間' (2022/04/25 ~ 2023/03/27), and '施工場所' (広島県広島市安芸区船越南地先). Annotations include: 1. A blue box pointing to the '新技術活用計画書' tab with the text '① クリック'. 2. A blue box pointing to the '新技術施工期間' field with the text '② 新技術施工期間の変更があれば更新する'. 3. An orange box pointing to the '記入完了' checkbox with the text '③ 提出前には必ず「記入完了」チェック *各タブ毎にチェックボックスがあります.'

活用効果調査表作成時点で、工事期間や新技術施工期間の変更がありましたら、情報を更新してください。

② 新技術施工期間の変更があれば更新する

記入完了のチェックについて

記入完了のチェックボックスへ☑の上、登録ボタンを押す事で記入漏れ等のチェックをシステムで行い、エラーがなければ中技へ自動的に提出（登録）されます。



なお、活用効果調査表入力時点では、実施報告書及び活用効果調査表のチェックボックスに☑は入っていないので、必ず、手動で☑を入れる必要があります。

注意) 記入完了のチェックが入っていない状態で登録ボタンを押しても、中国技術事務所に提出されません。そのため、提出したつもりが未提出状態になっているという案件が多発していますので、全ての記入が終わった時点で必ず記入完了のチェックを確認してから登録ボタンを押して下さい。

② 工事期間の変更があれば更新する

工事期間は、この画面では直す事が出来ませんので、管理画面に戻って

工事/業務情報・連絡先等の変更 のバナーリンク先の工事期間を修正して下さい。

II 実施報告書 記載方法 - 1

- ① 「実施報告書」タブをクリックして、入力画面に切り替える。
- ② 施工概要（内容、対象数量、新技術使用箇所）を記入する。
- ※ ③～⑥は次ページ参照。
- ⑦ 入力が完了したら「記入完了」をチェック。

施工概要「内容」

どのような工事（業務）で、新技術が活用されたのか知るための欄ですので、工事全体の施工（業務）内容がわかる工種と数量を記載してください。工種・数量はコリンズ登録の工事概要を流用頂ければ、手間は少し省けると思います。
仮設工や維持工事等では、「一式」の記載を認めますが、基本的に「一式」の記載は不可です。

- 【不適切な例】 × 道路土工 一式、〇〇工 一式
× 〇〇整備事業における●●工事である。
- 【適切な例】 ○ 盛土工 1500㎡、〇〇工 〇m² . . .

施工概要「対象数量」

施工概要「対象数量」欄は、新技術の使用量や対象工種の数量を記載します。NETISに掲載されている「基準とする数量」の単位を使用し、使用した数量や期間を具体的に記載してください。※必要に応じて情報を補ってください。

例) 舗装補修技術であれば、舗装面積〇㎡だけではなく、舗装厚〇cm システムや機械であれば、使用した台数や使用期間を記入する。
機器買い取りの場合〇台、リース品の場合〇台・〇日間（ヶ月間）など

- 【不適切な例】 × ●●工 一式（対象数量に、工事全体の数量を記載）
【適切な例】 ○ 50基、10カ月（数量と期間）

① クリック

② 施工概要「内容」を記入

例) 〇〇整備事業における●●工事である。
道路改良 L=〇m、橋梁下部工〇式、橋脚〇基
【工事全体の主要工種の数量を記入】

③ 施工概要「対象数量」を記入

例) 橋梁の切削箇所 〇㎡ 【新技術の使用数量】

④ 施工概要「新技術使用箇所」を記入

例) 路面切削土工部 〇㎡ 【新技術の適用箇所や工種】

⑤ 記入完了

⑥ 提出前に「記入完了」をチェックする

⑦ 記入完了

施工概要「新技術使用箇所」

新技術使用箇所は、この工事（業務）での使用箇所を具体的に記載してください。

NETISの新技術掲載情報

従来の技術との比較

項目	従来の技術	新技術	比較の概要
経済性	向上 (45.3%)	向上	従来技術と比較して施工費が安くなる
工期	短縮 (50%)	短縮	従来技術と比較して日当たり作業量が増加、短縮となる
品質	向上	向上	
安全性	向上	向上	
施工性	向上	向上	従来技術と比較して削り取り効率が向上し施工効率が向上する
周辺環境への影響	向上	向上	
その他、技術のアピールポイント等	向上	向上	舗装削り取りにおいて、従来技術と比較して削り取り量が少なく、特殊な形状は削り取りが容易であった。
コストタイプ	削減型	削減型	

基準とする数量 1000.00 単位 ㎡

新技術 従来技術 向上の程度

対象数量の単位は「基準とする数量」の単位と原則そろえてください。

基準とする数量

単位

- ③ 必要に応じて新技術の活用内容が把握出来る図面や数量表、実績表、写真等を添付する。
- ④ 「現場施工条件」を記入する。
- ⑤ 障害、作業環境の該当項目の○を選び、前ページの(手順⑦)「記入完了」をチェック)し、引き続き活用効果調査表作成へ

施工者

施工(活用)概要資料 ※新技術の活用内容が把握出来る図面や写真等を添付。(活用後の情報で構いません。)

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルを選択 選択されていません

③ 必要に応じて新技術の活用内容が把握出来る図面や数量表、実績表、写真等を添付

④ 「現場施工条件」を記入

現場施工条件 各全角1000文字以内。

●現場条件

例) 回収部分のN値は、2～1.3程度。川裏側に一部砕石があり、先行除去作業が必要であった。

●周辺状況(病院、学校、鉄塔の有無等)

例) 改良部より川裏側(L=6.0m付近)に電力会社の鉄塔あり

●自然環境(騒音、振動、水質等)

例) 今回施工した改良部では、地下水、湧水への影響はない。

障害 施工上で重大な障害や問題が生じたか。

無 有

障害の内容 全角127文字以内。

作業環境 陸上作業 水上作業 地下作業 水中作業 高所作業

⑤ 障害の有無及び作業環境について該当項目の○をクリック

施工(活用)概要資料について

施工(活用)概要資料は、必須項目ではありませんが、事後評価段階で活用状況が把握出来る資料をできるだけ添付してください。

- * 概要資料とは新技術の活用内容が把握出来る図面や数量表、実績表、写真などです。NETIS情報のPDFやパンフレット、活用効果調査表と同じ写真を添付する必要はありません。
- * 夜間用の反射材など、施工中の写真では技術の評価の判断できないものは、効果の分かる夜間の写真等を必ず添付して下さい。

現場施工条件について

「現場施工条件」は、活用効果調査表がどのような条件で作成されているのか判断する重要な欄です。

- * 地質や天候などの自然条件や夜間施工であるか、工事へ影響する施設の有無など、具体的な記載をお願いします。
- * 特筆することがない場合、「特になし」と記載してください。

障害について

障害等があった場合はその内容を必ず記載して下さい。

Ⅲ 活用効果調査表 活用効果調査表作成の視点(比較技術)

活用効果調査表は、必ずNETISで設定された新技術の『比較する従来技術』と比較して評価を行って下さい。
また、原則6項目(経済性・工程・品質・安全性・施工性・周辺環境への影響)について評価を行ってください。
『比較する従来技術』は、下記のように活用計画書の新技術名称の直下の欄に表示されています。



活用計画書に表示されている、この「比較する従来技術」と必ず比較して評価を行って下さい。

NETIS申請情報 (クマンツメと従来技術の比較)

NETIS申請情報 (クマンツメと従来技術の比較)

掲載情報の「従来技術との比較」タブからリンク

比較する従来技術と新技術の比較は、掲載情報の「従来技術との比較」の中の「比較の根拠」欄に掲載されていますので、これらも参考にして評価を行って下さい。

項目	活用の効果	比較の根拠
経済性	向上 (41.3%) 同程度 低下	従来技術と比較して施工費が安価になる
工程	短縮 (50%) 同程度 増加	従来技術と比較して日当たり作業量が増加で、短縮となる
6項目 品質	向上 同程度 低下	
安全性	向上 同程度 低下	
施工性	向上 同程度 低下	従来技術と比較して剥ぎ取り効率が向上し施工効率が向上する
周辺環境への影響	向上 同程度 低下	

この事例では【同程度】に比較の根拠のコメントが入っていませんが、これは、**従来技術と同等**の評価です。
ここにコメントに記載がない場合でも、「当該技術に関連しない」評価とはなりませんので留意してください。

比較する従来技術が適切でない判断した場合

上記「比較する従来技術」との比較が不適切と考えられる場合も、活用効果調査表の比較は、必ず活用計画書に掲載されている「比較する従来技術」と比較してください。
その上で、適切ではなかったと判断される理由を活用効果調査表の「当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか」欄で**適切でなかった**を選択し、**不適切と思う理由と適切と思われる従来技術名**を記入してください。(詳しくは 18 ページ)



Ⅲ 活用効果調査表 調査表の記載方法

活用効果調査表の各項目は、①評価点 ②調査の視点（優れていた点・劣っていた点） ③コメント の3つで評価します。
発注者と施工者の評価が全く異なる場合（どちらかが「優れる」でどちらかが「劣る」と評価が分かれる場合）は、提出前に調整を行ってください。

- ① 評価点数を入力（選択）し、○をクリックし選択する。
② 調査の視点の該当する項目のチェックボックスをクリックしチェックする。
③ 評価にかかわらず、その評価となる理由をコメント欄に記載する。
- 入力順番は、必ずしも①②③順でなくても問題ありません。

安全性

効果調査 ①評価点

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○ 1	○ 2	○ 3	● 4	○ 5

○ 当該技術に関連しない項目である

6項目は
原則選択
しない

コメント 全角1000文字以内。

例) 施工機械がバックホウタイプなので機動性があり、転倒のリスクも減少し、安全性が高く従来技術より優れていた。

③コメント

- ③ コメント（評価の理由）を記入
※評価にかかわらず必ず記入

- ① 評価点数を入力（選択）し
○をクリックし選択

施工者

発注者

優れていた点

- 墜落・転落事故の危険性が減少したため
- 重機災害の危険性が減少したため
- 飛来・落下物災害の危険性が減少したため
- 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が向上したため
- 危険物の取扱が減少したため

②調査の視点

劣っていた点

- 墜落・転落事故の危険性が増加したため
- 重機災害の危険性が増加したため
- 飛来・落下物災害の危険性が増加したため
- 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が悪化したため
- 危険物の取扱が増加したため

- ② 該当する項目の
チェックボックスをクリック

② 調査の視点のチェック数に応じて、
① 評価点の点数（1～5点）が、自動的に決まるシステムではありません。
次ページ以降を参照に① 評価点は手動でチェックし入力して下さい。

各評価のチェックポイント

- ◆ ①効果調査（評価点数○点）
②優れていた点・劣っていた点
③コメント } 整合が取れているのか？
- ◆ 計画書の「活用理由」「総合的所見」と整合が取れているのか？

調査の視点 ✓ に該当する項目がないとき

該当する項目がない場合、近い内容をチェックし、コメントにおいて、優れている点や劣っている点を具体的に記載してください。また、「優れていた点・劣っていた点」に該当する項目がなかったことも記載をお願いします。
*同等（3）以外は、現在、チェックがないと登録できないシステム仕様となっています。

Ⅲ 活用効果調査表 評価点1～5点の目安

活用した新技術が、「比較する従来技術」に比べて「大幅に優れる（5）」～「同等（3）」～「大幅に劣る（1）」を判断し、どの程度優れているか、どの程度劣っているか（1～5）で評価します。
なお、6項目は、原則1～5で評価を行って下さい。

評価点

大幅に劣る	劣る	同等	優れる	大幅に優れる
1	2	3	4	5

基本の6項目は、原則1～5で評価して下さい。
「当該技術に関連しない項目である」は選択しないでください。
(13 ページ参照)

「その他」の項目は、原則「当該技術には関連しない項目である」を選択して下さい。

経済性

効果調査

従来技術より劣る	劣る	同等	優れる	従来技術より優れる
○1	○2	○3	●4	○5

当該技術に関連しない項目である

コメント

評価点

優れていた点

- 機械経費、部品単価、補助材料費が減少したため
- 作業人数が減少したため
- 仮設費が減少したため
- 施工日数が短縮したため
- 施工量が想定数値より多かったため
- 維持管理費の増加が見込まれるため

劣っていた点

- 機械経費、部品単価、補助材料費が増加したため
- 作業人数が増加したため
- 仮設費が増加したため
- 施工日数が延長したため
- 施工量が想定数値より少なかったため
- 維持管理費の増加が見込まれるため

安全性

効果調査

従来技術より劣る	劣る	同等	優れる	従来技術より優れる
○1	○2	○3	○4	●5

当該技術に関連しない項目である

コメント

評価点

優れていた点

- 墜落・転倒事故の危険性が減少したため
- 季節災害の危険性が減少したため
- 作業・落下物災害の危険性が減少したため
- 作業環境(騒音・騒音・振動等)が向上したため
- 危険物の取扱量が減少したため

劣っていた点

- 墜落・転倒事故の危険性が増加したため
- 季節災害の危険性が増加したため
- 作業・落下物災害の危険性が増加したため
- 作業環境(騒音・騒音・振動等)が悪化したため
- 危険物の取扱量が増加したため

その他

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○3	○5

当該技術に関連しない項目である

コメント

工程

効果調査

従来技術より劣る	劣る	同等	優れる	従来技術より優れる
○1	○2	○3	●4	○5

当該技術に関連しない項目である

コメント

評価点

優れていた点

- 施工日数が短縮したため
- 工程計画が適切であったため
- 予定工程どおりに進捗したため
- 施工性が劣るため
- 仮設が増加したため
- 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

劣っていた点

- 施工日数が延長したため
- 工程計画が適切でなかったため
- 予定工程どおりに進捗しなかったため
- 施工性が劣るため
- 仮設が増加したため
- 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

施工性

効果調査

従来技術より劣る	劣る	同等	優れる	従来技術より優れる
○1	○2	○3	●4	○5

当該技術に関連しない項目である

コメント

評価点

優れていた点

- 現場での施工が楽になったため
- 仮設工が減少したため
- 作業員の作業が楽になったため
- 作業中に発生した作業が減少したため
- 施工の機械化が進んだため
- 施工時の騒音レベルが減少したため

劣っていた点

- 現場での施工が楽にならなかったため
- 仮設工が増加したため
- 作業員の作業が楽にならなかったため
- 作業中に発生した作業が増加したため
- 施工の機械化が進まなかったため
- 施工時の騒音レベルが増加したため

品質・出来形

効果調査

従来技術より劣る	劣る	同等	優れる	従来技術より優れる
○1	○2	●3	○4	○5

当該技術に関連しない項目である

コメント

評価点

優れていた点

- 品質が向上したため
- 出来形・精度が向上したため
- 耐久性が向上する構造になったため
- 品質・出来形の管理精度が増加したため
- 品質・出来形の管理精度が向上したため

劣っていた点

- 品質が低下したため
- 出来形・精度が低下したため
- 耐久性が劣る構造になったため
- 品質・出来形の管理精度が増加しなかったため
- 品質・出来形の管理精度が向上しなかったため

環境

効果調査

従来技術より劣る	劣る	同等	優れる	従来技術より優れる
○1	○2	○3	○4	●5

当該技術に関連しない項目である

コメント

評価点

優れていた点

- 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が減少したため
- 騒音・振動・振動等作業環境が改善したため
- 周辺の色形・生態環境・景観への影響が向上したため
- 作業廃棄物の発生量が減少したため(リサイクル率が向上したため)
- 省エネルギー・省資源化が進んだため

劣っていた点

- 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が増加したため
- 騒音・振動・振動等作業環境が悪化したため
- 周辺の色形・生態環境・景観への影響が低下したため
- 作業廃棄物の発生量が増加したため(リサイクル率が低下したため)
- 省エネルギー・省資源化が進まなかったため

「その他」項目について

「その他」の項目は、原則A技術では評価に使用しません。(評価点を付けません)

※新技術評価会議において、追跡調査が必要と判断され、評価会議が決定した調査の目的に合致する調査内容、調査方法等により、調査を実施する場合の欄で、VR技術に使用する欄となっています。

※なお、発注者・施工者双方が、特筆すべき点があり6項目に該当しない点であるが評価のために必要と判断した場合や、申請情報に6項目以外の項目が追加されている場合(16 ページ参照)に限り、使用する事ができます。

Ⅲ 活用効果調査表 5点と評価する場合の評価事例

5点と評価する場合は、優れていた点・劣っていた点のチェック数で自動的に評価を決めるものではありません。

優れていた点が多く評価が「5」の例

経済性

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	○3
		○4
		●5

○当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 経済性は、ベースマシンがバックボウタイプで小型であることから、機械経費・人件費が安価となり、仮設足場材(敷鉄板)に要する費用が減少し、施工日数が短縮できたという理由で非常に優れている。

優れていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- 作業人員が減少したため
- 仮設費が減少したため
- 施工日数が短縮したため

- 施工量が想定数量より多かったため
- 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- 作業人員が増加したため
- 仮設費が増加したため
- 施工日数が延長したため
- 施工量が想定数量より少なかったため
- 維持管理費の増加が見込まれるため

優れていた点のチェックが4項目

全般的に優れている点をコメント

優れていた点は1項目だが評価が「5」の例

工程

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	○3
		○4
		●5

○当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 工程は、地盤改良に要する日数を当初8日間予定していたが、4日間(1/2)となり、施工日数を大幅に短縮できたという理由で非常に優れていた。

優れていた点

- 施工日数が短縮したため
- 工程計画が組みやすかったため
- 予定工程どおりに進捗したため
- 施工性が向上したため
- 仮設が減少したため
- 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

優れていた点のチェックが1項目

1項目が、いかに優れていたかを具体的にコメント

劣っていた点

- 施工日数が延長したため
- 工程計画が組みやすかったため
- 予定工程どおりに進捗したため
- 施工性が向上したため
- 仮設が増加したため
- 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

評価点とコメント

優れていた点のチェックが1項目でも「従来技術より優れる(5点)」と評価する場合があります。(チェック項目数だけの判断ではありません。)コメントにおいて、特に優れていた点を具体的に記載して下さい。

*評価点別のコメントの見本を中技HPに記載していますので、参考にして下さい。

Ⅲ 活用効果調査表 同等と評価する場合の評価事例

同等と評価する場合は、主に「① 比較による差がない場合」か「② 優劣を総合的に評価して同等とする場合」です。

① 従来技術と比較した場合に変化が無い場合

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	○3

○当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

理由を明記してください。

選択しないでください

例1) 【施工性】

従来技術と比較して、構造が類似した落橋防止材であるため、施工方法に差がなく、現場での施工性は同程度であった。

例2) 【環境】

周辺環境への影響について、従来技術と比べた場合に変化がないため、同等と評価する。

例1でのチェック例

優れていた点

- 現場での施工が減少したため
- 仮設工が減少したため
- 作業員の作業が容易になったため
- 熟練度に依存した作業が減少したため
- 施工の機械化が向上したため
- 施工時の制約条件が減少したため

劣っていた点

- 現場での施工が増加したため
- 仮設工が増加したため
- 作業員の手間が増えたため
- 熟練度に依存した作業が増加したため
- 施工の機械化が低下したため
- 施工時の制約条件が増加したため

比較した結果、変化がないため、「優れていた点」「劣っていた点」で該当項目無しとなります。

「同等」と評価する場合は、「優れていた点・劣っていた点」のチェックが無くてもシステム登録は可能です。

よくある間違い

比較した結果、変化がないため、「当該技術に関連しない項目である」を選択する事例が多くあります。そのような場合、基本的に3同等での評価をお願いします。

② 総合的に判断して同等とする場合

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1	○2	○3

○当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

具体的な事由を列挙し、同等と評価した理由を記載します。

例1) 【経済性】

新技術の製品単価は、従来技術よりも高額であったが、工程の短縮、作業人員の減少により労務費が削減でき、総合的には従来と同等の経費で施工できた。

例2) 【環境】

騒音値は低減したが、わずかに低減しただけで大きな差がないため、同等と評価します。

例1でのチェック例

優れていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- 作業人員が減少したため
- 仮設費が減少したため
- 施工日数が短縮したため
- 施工量が想定数量より多かったため
- 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- 作業人員が増加したため
- 仮設費が増加したため
- 施工日数が延長したため
- 施工量が想定数量より少なかったため
- 維持管理費の増加が見込まれるため

例1：優劣を総合的に評価する場合
比較した結果、優劣の両項目に該当するが、総合的に評価して優劣の差がつかない場合は同等と評価します。

例2でのチェック例

優れていた点

- 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)
- 騒音・振動・粉塵等作業環境が改善したため
- 周辺の自然・生態環境・景観との調和が向上したため
- 産業廃棄物の発生量が減少したため(リサイクル)
- 省エネルギー・省資源化が向上したため

劣っていた点

- 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)
- 騒音・振動・粉塵等作業環境が悪化したため
- 周辺の自然・生態環境・景観との調和が低下したため
- 産業廃棄物の発生量が増加したため(リサイクル)
- 省エネルギー・省資源が低下したため

例2：優れる(劣る)が差がわずかの場合
比較した結果、優劣どちらかの項目に該当するがその差がわずかの場合は同等と評価する事ができます。(評価するほど差がない場合)

コメントの記載内容

- ◆ 効果調査でチェックした評価(1～5点)の理由を具体的に記載してください。
- ◆ 「優れていた点・劣っていた点」でチェックした項目の補足
- ◆ 「優れていた点・劣っていた点」の項目にはない、具体的な活用状況
- ◆ 同等の場合も同等と評価した理由を記載する必要があります

工程

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○ 1	○ 2	○ 3	○ 4	● 5

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 日当たり作業量が増加し、従来技術では8日間程度かかっていた作業が4日間(4日間の短縮)になり、工程が大幅に短縮でき非常に優れていた。

可能な限り定量的なコメントを記載してください。

優れていた点

- 施工日数が短縮したため
 - 工程計画が組みやすかったため
 - 予定工程どおりに進捗したため
 - 施工性が向上したため
 - 仮設が減少したため
 - 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 施工日数が延長したため
- 工程計画が組みづらかったため
- 予定工程どおりに進捗しなかったため
- 施工性が劣るため
- 仮設が増加したため
- 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

コメント参考資料 ①

NETIS申請資料の「従来技術との比較」欄に、想定される効果の定量的値及び、根拠資料が掲載されていますので、定量的なコメント作成の参考にして下さい。

概要	従来技術との比較	特許・審査証明	出願・施工	施工実績	関係先	詳細説明	職員専用
活用効果							
比較する従来技術	平爪を装着したバックホウ+人力剥離作業						
項目	活用の効果			比較の根拠			
経済性	向上 (41.3%)	同程度	低下	従来技術と比較して施工費が安価になる			
工程	短縮 (50%)	同程度	増加	従来技術と比較して日当たり作業量が増加で、短縮となる			
品質	向上	同程度	低下				
安全性	向上	同程度	低下				
施工性	向上	同程度	低下	従来技術と比較して剥ぎ取り効率が向上し施工効率が向上する			
周辺環境への影響	向上	同程度	低下				

コメント参考資料 ②

中技HPに、評価点別のコメント事例集を掲載しています。書きぶり等の参考にして下さい。掲載場所は、このマニュアル掲載のバナーの直下にあります。

コメント事例掲載例(全国統一)

新技術活用効果調査表のコメント『5』の事例について

・評価に至った理由である「.....」は、下記の文例を参考にして下さい。

効果調査が「5」の場合
経済性は、当該技術で今回施工を行った結果、従来技術(電流陽極方式による電気防食)と比較して、機械経費、作業人員が減少し、非常に安価であった。
経済性は、従来技術に比べ塗布の工程が半減(4工程→2工程)しており、工期及び作業人数が減少し、非常に優れていた。
経済性は、従来の運搬用大型トラックに比べ小型トラックで運搬が可能となった分、大幅なコスト削減ができた。

コメント記載のポイント

- ◆ 「従来技術の●●と比較して○○であった」という視点で作成します。
- ◆ 現場の具体的な事例が有用な資料となります。可能な限り定量的なコメントを記載してください。

工程のポイント

工程と施工性は、一般的には、密接な関係にあります。相互の整合性を確認します。

「当該技術に関連しない項目である」の選択は、発注者・施工者双方で判断した場合とし、その理由を明確に記載してください。特別な理由がない場合、原則6項目（経済性・工程・品質・安全性・施工性・周辺環境）について当該技術に関連しない項目は選択しないで下さい。6項目については、従来技術と違いがない場合、または、優れる点や劣る点がない場合は「同等」の評価となります。

品質・出来形

効果調査

優れていた点

令和7年度より、『当該技術に関連しない項目である』は、選択しない運用となります。

6項目（経済性、工程、品質・出来形、安全性、施工性、環境）評価が必須です。

システム技術など、標準の評価6項目が該当しないと思われる場合も評価した上で、コメント欄で関連しない旨を記載して下さい。

ない項目の場合、
選んでいない
となり6項目は、発注者・施工者双方で判断し、
技術内容「当該技術項目」である
項目を選択可
で、双方

「当該技術に関連しない項目」とする場合

◆ 発注者・施工者一方のみが「当該技術に関連する項目」と評価しないようにして下さい。

同等と評価する考え方

例) ソフトウェアの性能向上の場合

安全性・施工性・周辺環境への影響は直接的に比較しにくいですが、大局的に見て、従来と比べて変化が無い場合と判断できる場合は、同等と評価を行う。

理由) 評価を行う場合、1項目や2項目のみで評価を行うと、評価が極端になりがちなため、同等と評価できるものは同等で評価を行い公平な評価とするため。
(中国地方整備局評価会議意見)

III 活用効果調査表 「品質・出来形」の評価(出来形に影響しない技術) 14

活用した新技術が、工事全体に直接影響しない場合では、技術自体の耐久性や品質を評価してください。

- 例) 仮設材では仮設材としての耐久性や品質
- 情報化技術であれば情報化されたサービス自体の品質
- 測量技術であれば測量精度など

品質・出来形

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input checked="" type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5

当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 現場での確認・立会も遠隔での確認・立会も大差はなかったため同等とする

- 優れていた点
- 品質が向上したため
 - 出来形・精度が向上したため
 - 耐久性が向上する構造になったため
 - 品質・出来形の管理項目が減少したため
 - 品質・出来形の管理頻度が減少したため

製品や機械自体の品質や耐久性
例) 照明器具の明るさ
仮設材としての耐久性

- 劣っていた点
- 品質が低下したため
 - 出来形・精度が低下したため
 - 耐久性が劣る構造になったため
 - 品質・出来形の管理項目が増加したため
 - 品質・出来形の管理頻度が増加したため

システムであれば、システム化されたことによるサービスの質、測量技術であれば測量精度など

品質管理項目や品質管理頻度の増減
例) 二次製品のため品質・出来形管理が容易となった。
例) 計測対象範囲の管理項目の確認、管理がシステムにより自動化され作業員による品質管理作業が不要となった。

- 【不適切な例】
- × 品質・出来形に影響を及ぼさない技術であるため関連しない評価項目である。
- 【適切な例】
- 本技術による出来形・品質への影響はないため同等。

一般者（通行車両や通行人）に対する交通事故リスク低減の効果や、地下埋設物の安全性など、第三者に対する安全性の効果については、安全性の「優れていた点・劣っていた点」に該当チェック項目がありません。「その他」項目ではなく、「安全性」において評価します。その際は、「優れていた点・劣っていた点」の中から近い項目を選択し、評価の内容や、その項目を選択した理由（コメントとチェック項目が直接関連しないことについて）をコメント欄に記載してください。総合的所見にも記載をお願いします。

第三者に対する安全性を評価する場合

安全性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	○3	●4	○5

○当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 通行規制が不要となるため、通過車両への安全性が向上しました。
 (「優れていた点」に該当項目がないため近い内容にチェックをしています。)

優れていた点

- 墜落・転落事故の危険性が減少したため
- 重機災害の危険性が減少したため
- 飛来・落下物災害の危険性が減少したため
- 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が向上したため
- 危険物の取扱が減少したため

劣っていた点

- 墜落・転落事故の危険性が増加したため
- 重機災害の危険性が増加したため
- 飛来・落下物災害の危険性が増加したため
- 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が悪化したため
- 危険物の取扱が増加したため

該当する項目がない場合、近い内容を選択してください。

コメント欄に、

- ・評価点(1~5点)の理由
- ・新技術を使用した効果や使用状況
- ・該当する項目がないため、近い項目にチェックしたことなど、詳しく記載をお願いします。

第三者の安全性に該当する例

- ◆通行安全性に関する事例
 例年の草刈り作業が不要となるため、草刈機による飛び石や草の繁茂による視距不良がなくなり、歩行者、通行車両への安全性が向上した。
- ◆地下埋設物に関する事例
 矢板による仮設が不要となるため、地下埋設物への影響がなくなり、安全性が向上する。

III 活用効果調査表 「その他」の項目の取り扱い

その他の項目は、A技術では、原則使用しません。主にVR技術で使用するものです。
※新技術評価会議において、追跡調査が必要と判断され、調査を実施する場合に主に使用する項目です。
※または、発注者・施工者双方が、特筆すべき点があり6項目に該当しない点であるが評価のために必要と判断した場合や、NETISの申請情報に、右下の例のように6項目以外の項目が追加されている場合に限りて使用する事ができます。

その他

タイトル 全角20文字以内。

例) 作業環境

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5

◎当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

タイトル（比較項目について）を記載してください。
記載すると効果調査表評価やコメントが記載可能となります。

他の項目と同様に評価理由のコメントを記載してください

追加項目がある技術の例

NETISホームページにおいて6項目以外の評価項目が追加されている技術では、その他欄を追加して評価することができます。

「従来技術との比較」タブをクリック

項目	活用の効果	
経済性	低下	洋式トイレと性が低下する。
向上	同程度 (-75.97%)	
工期	短縮 (0.2%)	同程度 増加
品質	向上	同程度 低下
安全性	向上	同程度 低下
周辺環境への影響	向上	同程度 低下
作業環境	向上	同程度 低下
その他、技術の	向上	同程度 低下

6項目

6項目以外に「作業環境」が追加されている

よくある間違い

- ◆ NETIS情報の「技術のアピールポイント」を記載している
アピールポイントは、6項目を総合した内容なので6項目と重複します。
- ◆ 他の6項目に集約できる内容を記載している
「安全性」や「周辺環境への影響」等の効果であるが、「優れていた点・劣っていた点」に該当チェック項目がない場合、その他欄を追加して評価するのではなく、「優れていた点・劣っていた点」にチェックをせず、コメント欄に詳しく記載することで評価します。また、総合的所見にも記載をお願いします

技術のアピールポイントは、その他の評価項目ではありません

- NETIS掲載情報の『期待される効果』に対して、活用した結果はどうでしたかを記載する。
- 「当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は・・・」以降の3項目を記載する。（詳細は次ページ 18）
- 【施工者のみ】施工状況の写真を添付する。

総合的所見 NETIS掲載情報の『期待される効果』に対して、活用した結果はどうでしたか

施工者
発注者

優れていた所 全角1000文字以内。

例) 耐磨耗性に優れ、鋭利で剥ぎ取りやすい形状の爪であるため、従来工法に比べて剥ぎ取り効率が向上した。また、既設床版を傷つけることなく施工を行うことができた。

劣っていた所 全角1000文字以内。

例) 新技術の導入は、追加費用となった。

① 優れていた所・劣っていた所
・留意する所を記載

留意する所 全角1000文字以内。

例) 剥ぎ取り箇所の状況に応じて刃先の取付位置の選定が必要。

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

適切であった 適切でなかった

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内。

② 以下の3項目を記載する。
 「当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか」
 「今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか」
 「当該技術について改良点・要望・その他ご意見が有りましたら自由に記入してください」

総合的所見

「優れていた所」又は「劣っていた所」のどちらか1箇所以上記入が必要です。

6項目における

- ・評価点
- ・優れていた点・劣っていた点
- ・コメント

と整合が取れた内容であるか確認して下さい。

NETISに掲載されていない情報(施工性や技術の調達状況など)が現場での活用を判断する重要な情報となります。

**比較する従来技術
今後の活用の可能性
改良点・要望**

具体的な記載方法は、次ページ 18 を参照して下さい。

施工状況等の写真 ※写真ファイルには、**③ 【施工者のみ】 施工状況の写真を添付**を指定してく 施工者

工法については、必ず施工状況が分かる写真を添付してください。



登録済み写真名:
舗装面剥ぎ取り作業



クマンツメ0.28m3用



剥ぎ取り後の状況

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

施工状況等の写真

【施工者のみ】
工事・業務での活用状況がわかる写真を必ず添付してください。

基本的に、施工状況写真は必須です。
(全景、近景、施工時、完成時等)

※製品やシステム、ソフトなど施工写真がない場合、
利用状況やモニタ画面の写真を添付します。
写真を添付しないとシステム登録できません。

「当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか」の記載方法について

- ① 「比較する従来技術」が適切であったかどうかをチェック
- ② 不適切と考える場合は、コメント欄に適切と考える従来技術とその理由を記載する

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

適切であった 適切でなかった

① いずれかをクリック

② 「適切でなかった」とする場合、「適切と考えられる技術名」とその「理由」を記入する

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内。

本技術の適用打設長は〇〇mであるのに対し、比較する従来技術「△△工法」の適用打設長は、△△mであり、比較する従来技術は「□□工法」が望ましい。

「今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか」

- ① 今後の活用に関する意見をチェックする
- ② 理由をコメント欄に記載する。

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

今後も是非活用したい 活用を検討したい 場合によっては活用することもある 技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内。

① 当該技術の活用の可能性について該当項目にチェック

② 上記で選択した内容について理由を記載する

「当該技術について改良点・要望・その他ご意見が有りましたら自由に記入してください」

- ① 改良点・要望・その他意見があれば記入する。

当該技術について改良点・要望・その他ご意見がありましたら自由に記入して下さい 全角1000文字以内。

① 意見等があればコメントを記載

活用効果調査表の提出

- 【施工者】** ① 施工者は、実施報告書・活用効果調査書（施工者用）の記載が全て完了したら、活用効果調査書（施工者用）タブ内の記入完了のチェックをしてから「登録」をクリックしてください。
- 【発注者】** ② NETISシステムより、発注者（監督員）に下記の通知メールが届きますので、発注者（監督員）はメール内のリンク先から発注者IDでログインし、施工者の入力内容を確認して下さい。
- ③ 施工者の入力内容で**修正が必要な箇所があれば**、施工者に対して「修正依頼」ボタンから修正を依頼してください。
→ **【施工者】**は、修正依頼があった場合、内容を確認して修正し再度記入完了のチェックをしてから「登録」してください。
- ④ 施工者の入力内容に問題が無ければ、活用効果調査表（施工者用）を参考に、活用効果調査表（発注者用）を記載して下さい。
- ⑤ 活用効果調査書（発注者用）の記載が全て完了したら、活用効果調査書（発注者用）タブ内の記入完了のチェックをしてから「登録」をクリックしてください。
- 【確認者】** ○ 発注者の登録後、確認者がチェックを行います。確認後、**問題がなければそのまま最終登録され、公開されます。**
○ **確認・修正点があれば、発注者へ確認・修正依頼を行います。** ⇒ 20 へ

施工者

① 施工者から発注者への提出は、記入完了にチェックを入れて「登録」をクリックします

記入完了

NETISシステムから自動メールが発注者（監督員）へ送信されます。

発注者

② 通知メールのリンクをクリック

【新技術活用工事情報】
調査表を作成する新技術のNETIS番号 KT-240161

受注者名 ○○株式会社
組織機関名 中国地方整備局
部署・事務所名 中国技術事務所
工事名 ダミー工事3
工事のコリンス番号 4000000006

発注者

③ 施工者への修正依頼は「施工者へ修正依頼」をクリック *修正依頼がある場合のみ

⑤ 確認者（中技）への提出は記入完了にチェックしてから「登録」をクリック

④ 活用効果調査表（発注者用）を入力する

② 入力内容を確認

【発注者】確認者から依頼があれば内容を確認し、必要に応じて施工者へ修正を依頼する。

※ 確認・修正依頼メールは、発注者のみに送付され、施工者には送付されませんので発注者からの修正依頼が必要です。

① 確認依頼メールのリンクをクリックする。

新技術活用工事
発注者 ご担当者様

発注者

活用効果調査表の内容修正依頼が届いております。
以下のリンクから確認用 Web サイトにアクセスいただき、内容の修正をお願いいたします。

【活用効果調査表確認用 Web サイト】
活用効果調査表入力用 Web サイトへ

① リンクをクリック

【確認対象情報】

NETIS 番号 **KT-180089**
受注者名 ○○株式会社
組織機関名 中国地方整備局
部署・事務所名 中国技術事務所
工事名 ダミー工事3
工事のコリンス番号 4000000006

② システムにログインする。

③ 確認対象のボタンをクリックする。

発注者

受注者名 ○○株式会社
組織機関名 中国地方整備局
部署・事務所名 中国技術事務所
工事名 ダミー工事3
工事のコリンス番号 4000000006

③ 確認対象技術の
「活用効果調査/活用計画書へ」
をクリック

NETIS番号	技術名
KT-230048	小黒板電子化アプリ「SiteBox」
QS-110003	自走式板脱水洗トイレカー
KT-180089	樹脂製ネットによるイタドリ等の生育抑制手法

④ 確認依頼内容を確認し、必要に応じて発注者から施工者へ修正依頼を行う。⇒ 21へ ⑤ 修正内容を確認し、確認又は修正の上「登録」をクリックして中技へ再提出する。

発注者

記載内容の一時保存ができます

④ 必要に応じて「施工者へ修正依頼」

⑤ 「登録」(中技へ再提出)

- 確認者からの修正依頼メールは、発注者(監督者)へしか発送されません。
- 施工者記載内容の修正が必要の際は、上記のボタンから施工者に依頼して下さい。(修正依頼後は 22 ページを参照)

活用効果調査表の確認・修正依頼内容の具体的詳細は、添付のPDFに記載されています。PDFは、ダブルクリックすることで、ダウンロードできます。

コメント欄

④ 修正依頼内容を確認し記載内容を修正する

確認者からの確認・修正依頼の内容は、コメント欄に記載されています。

ここに、コメントを入力し「一時保存」「施工者へ修正依頼」「登録」ボタンのいずれかを押すと上のコメント欄に移動して、コメントのやりとりができます。

樹根製ネットによるイタドリ等の生育抑制手法. PDF

コメントを編集 コメントを削除 コメント内容確認済

【施工者】施工者は、発注者から修正依頼（メールによる通知）があった場合は、確認対象技術の活用形計画書のコメント欄を確認し、記載内容について確認・修正を行ってください。

- ① 確認依頼メールが届いたら、リンクをクリックする。
- ② ID/PWを入力しシステムにログインする。
- ③ 当該技術の新技术活用計画書を開く。

- ④ コメント欄の修正依頼内容を確認して修正する。
- ⑤ 修正が完了後コメント欄に修正完了の旨を記載する。
- ⑥ 登録をクリックする。（発注者へ再提出）

新技术活用工事
ご担当者様

活用効果調査表の内容修正依頼が届いております。
以下のリンクから確認用 Web サイトにアクセスいただき、内容の修正をお願いいたします。

【活用効果調査表確認用 Web サイト】
活用効果調査表入力用 Web サイト

① リンクバナーをクリック

NETIS 新技術情報提供システム

ログインID: ABCDE
パスワード:
ログイン キャンセル

② ID/PWを入力しログイン

NETIS 新技術情報提供システム

⑥ 修正完了後「登録」をクリック

確認・修正依頼内容は、
新技术活用計画書タブ内のコメント欄に記載されています。
活用効果調査表の確認・修正依頼内容の具体的詳細は、添付のPDFに記載されています。

④ コメント欄の修正内容を確認し修正

⑤ 記入欄に修正した旨のコメントを記入

コメント欄

記入欄

工事/業務情報

NETIS 新技術情報提供システム

③ 確認対象技術の「活用効果調査表/活用計画書」をクリック

受注者名: ○○株式会社
組織機関名: 中国地方整備局
部署・事務所名: 中国技術事務所
工事名: ダミー工事3
工事のコーンズ番号: 4000000006

活用効果調査表/活用計画書の検索

NETIS番号: KT-180089

活用効果調査表/活用計画書

活用効果調査表/活用計画書

活用効果調査表/活用計画書

不備①：活用効果項目の評価不足及び不備

- × 活用計画書における活用理由の項目しか活用効果評価していない。 ⇒ 7 13 ページ参照
→ 活用理由は、主な活用理由1項目でも構いませんが、**評価は原則6項目必要です。**
- × 施工者と発注者の評価項目に相違がある。 ⇒ 8 13 ページ参照
→ 施工者と発注者の評価の優劣が分かれる場合は事前に調整して下さい。
当該技術に関連しない項目とする場合は事前に施工者は発注者と調整して下さい。
- × その他項目に入力されている。 ⇒ 16 ページ参照
→ A技術では、その他欄は基本的に入力しないでください。
→ アピールポイントをその他欄に記入しないでください。

不備②：実施報告書【施工概要】の内容欄・対象数量欄が「一式」と記載されている

- × 具体的な工種や数量が記載されず、「一式」と記載している。 ⇒ 5 ページ参照
→ 施工概要「内容」欄は、**工事全体の概要がわかるように、主要工種の数量を記載**してください。
施工概要「対象数量」欄は、**新技術の使用量や対象工種の数量を記載**してください。
その際、NETISに掲載されている「基準とする数量」の単位を用いてください。

不備③：NETIS情報の“比較する従来技術”との比較になっていない。

⇒ 7 ページ参照

- × NETISで設定された従来技術とは異なる技術と比較している。（各現場で従来技術がそぐわない場合など）
→ 必ず、使用した新技術のNETISで登録されている「**比較する従来技術**」と比較した評価を行ってください。
比較する従来技術が適さないと考える場合は、総合的所見の「当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか。」欄への記載をお願いします。

留意点①：活用効果調査表の提出時期

- × 新技術の活用は終了しているが、工期末に提出と勘違いしており活用後速やかに活用効果調査表を提出していない。
- **新技術活用後は、速やかに活用効果調査表を提出してください。**
工事完了前でも、新技術の活用が終わった時点で、早めの提出をお願いします。
特に年度末は、年度内に内容確認し登録ができるよう、ご協力をお願いします。
ただし、新技術の使用途中では提出できません。

留意点②：年度を跨ぐ場合などで監督員が変更となった場合

- 申請時の監督員と活用効果調査表作成時の監督員が変更となった場合。
- 上記①にも関連しますが、監督員の変更前に活用が終わっている場合は、速やかに活用効果調査表を作成して活用を行った当該年度内に活用効果調査表を提出して下さい。
- 監督員変更後に活用した場合は、監督員のメールアドレスを変更せずに施工者が活用効果調査表の登録を行うと前任の監督員へ確認依頼メールが自動配信されますので、事前に、監督員のメールアドレスを変更して下さい。変更の方法は、活用前編の⑥ページを参照して下さい。

質問：ログイン用のID・PWがわからなくなった

回答●まず発注者（監督員）に確認して下さい。

施工者ID・PW は、監督員へも通知されていますので、発注者への通知メールで確認できます。

●発注者も失念した場合は、中技または施工企画課に連絡してください。再発行します。

質問：活用計画書提出時は「A技術」であったが、活用効果調査表作成時点で「VE技術」「VG技術」となっている技術について活用効果調査表の提出は必要か。

回答●新技術活用スキーム実施要領上は提出不要です。

●ただし、工事成績の加点対象となっている場合は、A技術として評価が必要ですので活用効果調査表の作成が必要となります。提出の必要性は、監督員と相談して下さい。

質問：国債工事における年度毎の完済時の工事成績反映の取り扱いについて、完済工事の場合、A技術は年度毎に工事成績反映のために活用効果の評価が必要となるが、1 IDにつき1 技術しか登録出来ない。

回答●システムの仕様上、1 IDにつき1 技術しか登録できないので、A, VRの場合は、別IDを作って登録して下さい。
1 工事に、複数IDがあっても可とします。

●ただし、その場合、新技術の活用期間を年度毎に区切り、別の活用時期である事が分かるようにして下さい。

質問：システムから修正依頼のメールが届いたが、添付書類をクリックしても添付書類が開かない。

回答●PC（ブラウザ）の設定によっては、ポップアップ機能が制限される場合があります。

●ポップアップ表示が出ない場合でも、添付書類をクリックした時点で、データはダウンロードフォルダに格納されていますので、直接ダウンロードフォルダを確認して下さい。